市　長	副市長	教育長	教育次長	課　長	課長補佐	係　長	記　録

【所属名：市教育委員会事務局生涯学習課図書館係】
【会議名：第３次糸魚川市子ども読書活動推進計画
第４回策定委員会】

□開示
☑一部開示　(理由:条例第７条第２号　該当)
□不開示
□時限不開示　(開示:　　年　　月　　日)

会　議　録

作成日　令和６年２月 19 日(月)

日	令和６年２月 14 日(水)	時間	10：00 ～12：00	場所	糸魚川地区公民館 １階中研修室
件名	（議題）第３次糸魚川市**子ども読書活動推進計画**の策定について				
出席者	【出席委員】10 名（敬称略） 辻村　貴洋、関原　和人、小山　智穂、福原　政子、磯谷　芳子、伊藤　麗美、川合　真生、冨澤　博子、川合　弥嘉、山本　裕美 （欠席者：朝日　仁美） 【事 務 局】生涯学習課：山本課長、伊藤課長補佐、七澤主査、大西主任主事 こども課：山中センター長、（欠席）山岸園長				
	傍聴者定員	5 人	傍聴者数	0 人	

会議要旨

進行：大西主任主事
１　開　会（10:00）
２　挨　拶　山本課長、辻村委員長
３　協　議
⑴　パブリックコメントの報告
質問、意見等なし。

⑵　その他修正案につて
委　　員：P21「電子書籍にはない紙の本の魅力」について具体的に追記した点について。
「ページをめくる音」とあるが、音にこだわる必要があるか。ページをめくるその瞬間に子どもはわくわく感を持つ。例えば、「ページをめくる場面の転換が五感を刺激する」など、音だけではない表現でも良いのでは。
事 務 局：「五感」にこだわった部分があり、「触れる、匂う、聞く」等の表現となったが、「場面転換のわくわく感」など、確かに重要な感覚だと思う。
委　　員：それは五感を超えた感覚。大切な部分なので入れたいが、表現としてどのように入れたらよいか。

委　　員：「心の動きから様々な感性を」などの表現はどうか。子どもの心が動いて、色々な感性が動き出すのかなと思う。その色々な感性の中には五感ももちろん含まれるし、五感では表現できない感覚も入るのでは。抽象的な言葉ではあるが。

事 務 局：例えばスマートフォンで次のページへ進むときは、そういう感覚はないのか。あえてここで言いたかったのは、「紙の本」の良さを伝えたいために「五感」を入れた。本の大きさや視覚に入ってくるデジタルとは違う色合いのことなどを指していたと思う。ただ、これまでの議論のとおりそれだけではない感覚についても追加したいと思う。

委　　員：スマートフォンは場面が切り替わる。しかし、絵本や紙芝居は「空間」や「間」がある。次のページをめくる瞬間の期待感などが、子どもの表情から感じられる。

委　　員：「音」ではなく、「動作」にしてはどうか。ページをめくる動作は「触感」にあたる。

事 務 局：確かに、次のページに進むまでの「間」を楽しめるのも絵本や紙芝居の良さ。この点については追記したいと思う。具体的な表現は事務局で再度検討させてほしい。

委　　員：計画の中で電子書籍などのデジタル化に言及できないのは、県の方針が定まっていないことも大きいと思う。県立図書館は電子書籍サービスを開始したが、専門書が多く、各市町村への開放がない。長野県のように各市町村も利用できるような仕組みになれば載せられるかと思うが、現段階では難しいと思う。

事 務 局：議会で電子書籍についての質問が出た際は、この計画は図書館の在り方等についてではなく、あくまでも「子ども読書」であることを申し上げ、ご理解いただいた。ただ、その点についてもう少し具体的な記載が必要であろうということで、修正案のとおり考えていたところ。全世代を対象とした計画ならば、「電子書籍」も一つの大きな流れであり、記載の必要性があったかもしれない。また、県の方針が定まっていない部分もある。

委　　員：計画に反映する部分ではなく、その先の具体的な話になるかもしれないが、能生小学校だと PTA で保護者が図書部をやっていて、お便りを発行したり PTA 文庫を用意したり活動している。他の小学校でもそのような取組があるのか。また、子どもが図書委員で活動していると思うが、実際にその学校がどういう活動をしているか、他の学校は分からないことが多い。実際の活動を聞き取るのか、全体を集めて情報共有する場を作るのかは分からないが、そういう活動している人を引き込んで一緒にこの計画を推進していければ良いと思った。また、2/3 新潟日報の記事で、長岡市の互尊文庫で育児中のお子さんを預かって、お母さんが本を読むというイベントを実施していた。子どもに絵本の読み聞かせをしていくのもよいが、大人が本を読む時間を作るために、こども課などと連携できたら。産後ケアセンターやファミサポを使って、本を読む時間を作れたら良いのでは。

事 務 局：駅北に子育て支援の複合施設を建てる計画があり、そこに図書コーナーの設置を考えている。そこは従来と変わった形にしたいと考えている。今のご意見も参考にさせていただきたい。

委　　員：資料編の登録者数のグラフについて。
グラフの見方が分かりにくい。例えば０～12 歳の時に登録をして、年数が経てば自動的に 13 歳以降にカウントされるのか。その場合、このグラフの意味があるのか。

事 務 局：有効登録者数を表している。２年間貸出利用がない登録者は無効利用者となりカウントさ

れていない。グラフを載せた意図としては、「これだけの登録者数がある中で、貸出利用はこの位。」というものを示したかった。掲載の必要性については再度検討が必要だと思う。また、１年ごとの「新規登録者数」を示すグラフに差し替えることも可能。

委　　員：貸出利用者数のグラフについて。
「０～12 歳は保護者のカードで借りている場合もある」との説明があったが、以前は０歳であってもカードを作るよう声掛けをしていたと思う。ここ数年０～12 歳の数値が減っているのは、声掛けをしていない影響もあるかもしれない。今後もこのように統計を取っていくのであれば、声掛けの徹底が必要ではないか。また、子どもがカードを作れることを知らない保護者も多いと思う。

事 務 局：親御さんの考え方で、子どもが自分で選べるようになったら作りたいという方もいる。ただ、周知が弱いところがあるので、今後声掛けは必要かと思う。

委　　員：図書館で本を借りなくても、図書館に来た人の数は分からないか。

事 務 局：来館者数はカウントしていない。カウントしていたこともあったが、窓口業務と並行して行うため数え間違いなどがあり、カウントしなくなった。学習室利用者数や事業参加人数は分かるが「図書館に来て本を読んで帰る人」の数は捉えきれないのが現状。

委　　員：P26 の貸出利用者数のグラフについて。
19 歳以上の数値は必要か。数値が大きくなってしまうためこの部分が目立ち、18 歳以下の状況が読み取りにくい。

事 務 局：過去のデータが残っていれば、もう少し細かい年齢区分にすることもできる。その場合は 19 歳以上のデータは載せなくてもよいかもしれない。

事 務 局：資料３に 19 歳以下の貸出利用者について、年齢区分を細分化したグラフを載せている。また、資料３は「貸出実利用者数」であり、素案は「貸出延利用者数である。どちらがよいか伺いたい。

委　　員：年齢区分は細かい方が良い。また、実利用者数と述利用者数はどちらも掲載すると良いと思う。読書好きの子は何回も借りるだろうし、その辺りの傾向がグラフから見えるかもしれない。むしろ登録者数を載せるよりその二つを並べる方が、意味があるように思う。
また、グラフの色分け等分かりにくい点があるので、見せ方を工夫した方が良いかもしれない。

委　　員：表紙絵の案について。
子どもの絵もよいのでは。小学校など、本を読んだ後に絵を描いたりする。

委　　員：中学年でお話の絵を描く学年もあるので、あるか聞いてみると良いかもしれない。

事 務 局：糸魚川高校の美術部の生徒にお願いできないかとも考えた。

委　　員：図書委員会でポップを作っている。美術部の生徒もいて、とても上手に描いてくれる。

事 務 局：小学生の絵もよいと思うが、糸魚川高校は今年の総合探求の時間で図書館の活用について取り組んでもらうなど関わりがある。高校生にお願いするのも良いかもしれない。

事 務 局：表紙については糸魚川高校の生徒さんにお願いする方向で検討する。

委　　員：次年度計画案について。
読書活動やイベントが一括掲載されたポータルサイトがあるのが理想的。だれでも投稿出来て、だれでも参加できるというものがあると良いが、予算の都合もあるかと思う。各団体で行うイベントの共有は、12 月の会議だと遅い。年度初めにイベントを集約して、関係の団体に周知するとよいのでは。あるいはその都度連絡しても良いかもしれない。事務局がハブ役になれると良い。年１回の会議では難しいかもしれない。
事 務 局：回数については予算の関係もあるが、検討する。

４　総　括　辻村委員長、関原副委員長
５　その他　特になし
６　閉　会　(12:00)